

ALT 楽しく調理

大仙市 JAおばこ女性部が教室



女性部会員の手本を見て作り方を学んだ

地域住民と交流しながら県内の食文化に親しんでもらおうと、JA秋田おばこ大仙市中央エリア女性部は21日、大仙市内の小中学校に勤める外国語指導助手（ALT）を招いて料理教室を開いた。

参加したALT11人は女性部員の手ほどきを受け、いぶり大根やクリームチーズなどを県のブランド米サキホコレで包んだおにぎらず「サキホコレサンド」と、地場野菜を使ったものこ汁を調理。一緒に昼食を味わった。

女性部と市が共催し、同市花館のJAおばこ直売所しゅしゅえっとまるしゅのキッチンで行った。ALTはそれぞれ米国やオーストラリア、ジャマイカなどの出身。自己紹介の後、グループに分かれて調理を開始した。

参加者は、女性部員の手本を見ながらおにぎらずのご飯の量や具材を置く位置を丁寧に調整。ラップの上からそっとにぎって四角い形に整えた。包丁で半分に切り、断面にいり卵やホウレンソウなど色とりどりの具材が入った断面が現れると「ビューティフル！」などと声を上げ、互いに拍手して喜んだ。

テーブルを囲み「いただきます」と声を合わせて食べ始めた。英国出身のジョシュア・ハッチさん(26)は「サトイモを初めて食べておいしかった。普段はファストフードを食べがち。みんなで日本食を調理できて楽しかった」と喜んだ。

女性部の鈴木幸子

さん(70)は「孫と接する時みたいに楽しかった。私たち農家と一緒に郷土の料理を作り味わった体験を、それぞれの国へ帰るときの思い出にしてもらえたらうれしい」と話した。

(鈴木友理子)

(令和7年1月23日(木)秋田魁新聞より一部抜粋)



半分に切ったサキホコレサンドの断面を見せ合う参加者



手を合わせて「いただきます」と声をそろえる参加者たち